

不信仰の笑い

創世記一八章一〜15節

どうしてサラは、自分は年を取っているのに本当に子どもを産むことなどできるのか、と言って笑ったのか。主にとって不可能なことがあるのか。(13、14)

子の誕生を予告した御使いの言葉をサラは信じられずに心の中で笑いました。子どもを産めるような歳ではなかったサラにとり、神の言葉は笑うしかありませんでした。「どうしてそんなことがあり得ようか」と。不信仰のアブラハム夫妻に対して、主ははつきりと告げられました。「主にとって不可能なことがあるのか」と。現実の厳しい状況に心の目を奪われて、私たちは神の力を矮小化して、神の言葉を信じられず、心の中で笑ってしまうようなことがあります。サラと同じ過ちを私たちは今も繰り返すのです。後に「信仰の父」と呼ばれるようになったアブラハムも、そのような不信仰の失敗を経験し、時間をかけて確かな信仰へと導かれていったのです。私たちも、神の言葉を笑ってしまうような自らの不信仰に直面しながら、なお神の言葉の真実にかける信仰に立ちたいものです。